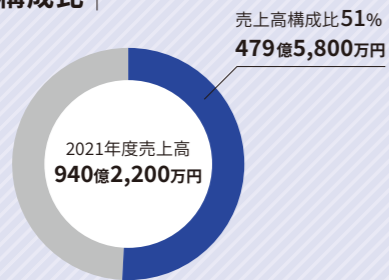


セグメントの概況 鉄道車両事業

Railway Rolling Stock

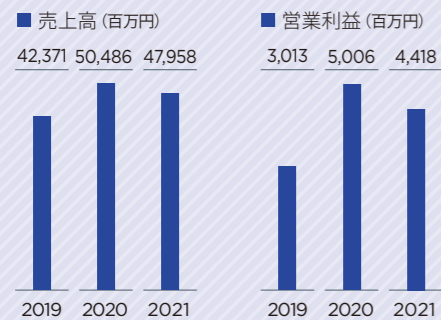
売上高構成比



業績ハイライト

2021年度において、JR向け車両は、JR東海向けN700S新幹線電車や在来線通勤型315系電車、JR東日本向けレール輸送車などの売上があり、売上高は388億8,200万円となりました。公営・民営鉄道向け車両では、小田急電鉄向け電車、名古屋市交通局向け電車などの売上があり、売上高は90億7,500万円となりました。以上の結果、鉄道車両事業の売上高は479億5,800万円となり、2020年度に比べ5.0%減少となりました。

過去3か年の売上高・営業利益



事業内容 [主要製品]

当社は、1896年の創立以来、一貫して鉄道車両の製造に携わり、国内外の鉄道事業者に多くの車両を提供し、先端の技術を取り入れた高品質の車両をお客様のニーズに応えつつ製造することで、信頼を得てまいりました。

2019年、当社は新幹線電車製作累計4,000両を達成いたしました。これは、国内メーカーとしては初のことであり、日本が生み出した世界最高レベルの新幹線システムへの信頼性ととも、日本車両の品質が高く評価されたものと考えております。

新幹線に限らず、JR在来線・公民営向け特急型車両、通勤型車両などあらゆる車両を設計、製造してきた実績があり、車体についてもステンレス製、アルミ製、鋼鉄製のいずれも実績があります。このように、各鉄道事業者のニーズにきめ細かく対応した車両を供給できることが特徴です。

今後も、安全性、快適性、環境性能などを磨きあげた車両を提供することで、社会基盤の充実と発展に幅広く貢献してまいります。

N700S新幹線電車



小田急電鉄70000形特急電車「GSE」



名古屋鉄道9500系電車



鉄道車両事業
Railway Rolling Stock

Transportation Equipment and
Steel Structure

Construction Equipment

Engineering



鉄道車両事業は、新型コロナウイルス感染症の影響が長引く環境下においても、新幹線電車をはじめ、特急型車両、通勤型車両、事業用車両等、幅広い車種に対応できる強みを生かしつつ、新ブランドN-QUALISや状態監視技術等を活用した技術開発による差別化と生産プロセスの改善等によるコスト低減に努め、競争力の強化を継続して進めてまいります。

執行役員 鉄道車両本部長 内藤 恒陽

超電導リニア改良型試験車を製作

当社はこれまで、JR東海が開業を目指すリニア中央新幹線計画において、山梨リニア実験線で投入された初期の試験車両から最新型の超電導リニア車両L0系までを納入した実績があります。また、2020年には、L0系で実施してきた各種試験のデータをもとに、さらにブラッシュアップさせたL0系改良型試験車の中間車を製造・納入し、現在、山梨リニア実験線において試験が続けられています。近い将来のリニア中央新幹線の開業に向け、さらなる技術の研鑽に努めていきます。



提供：JR東海

当社初の車両ブランド「N-QUALIS」を発表

鉄道車両本部長は、「日車変革2030」の長期ビジョンでもある「お客様の課題を解決するビジネスパートナー」になるべく、2021年11月、「N-QUALIS」を立ち上げました。

「N-QUALIS」は、豊富な実績と高い信頼性のもと、品質 (Quality)、保守 (LifeLong)、安全 (Safety) に磨きをかけ進化させた、次世代を築く当社の新ブランドです。特に、鉄道事業者のニーズに寄り添い、車両の「保守」にも配慮して、メンテナンス性向上による省力化を図っている点が強みです。具体的には、平滑かつ強度向上を図った構体、安全性と保守性を図った「NS台車」、台車等の異常を検知する状態監視技術等の要素を備えています。「N-QUALIS」車両の第一弾としてJR東海向け新型通勤車両の315系が2022年3月に営業投入されました。今後も鉄道事業者のニーズをアップデートしていきながら、各要素技術をブラッシュアップし、技術の確立を推進していきます。

(https://www.n-sharyo.co.jp/business/tetsudo/n_qualis/)



ハイブリッド車両「HC85系」

JR東海のハイブリッド式特急型気動車「HC85系」は、従来のキハ85系気動車に比べ、約35%の燃費向上を実現しており、排出するCO₂を約30%、NO_xを約40%削減しています。エクステリア/インテリアデザインは共通して「和」を表現し、室内の壁面は木目調で、グリーン車と普通車では色調を変えています。また、ガラス押さえ面のない大型の連続窓と側面衝突との両立は非常に難易度の高いものでしたが、技術的検討を重ね、これを実現することができました。



海外展開

当社はこれまで、海外の鉄道事業者向けに多くの車両を納入してきました。最近では、インドネシア初の地下鉄である「ジャカルタ都市高速鉄道 (MRT) 南北線」に96両の車両を納入し、現地の新たな交通手段として定着しています。また、台湾では日本の企業集団の一員として、新幹線車両としては初の海外輸出となる「台湾高速鉄道」向け車両の設計・製作に携わりました。北米では、これまでにギャラリー型と呼ばれる通勤型車両など、約1,000両以上を納入しました。

